

第8回調査分析部会 議事録

1. 日時：平成25年11月26日（火） 16：00－18：03

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

（1）委員

中須賀部会長、青木部会長代理、秋山委員、磯部委員、橋本委員、渡邊委員

（2）事務局

明野宇宙戦略室審議官、森宇宙戦略室参事官、深井宇宙戦略室参事官、
頓宮宇宙戦略室参事官

（3）説明者

独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA） 光盛調査分析課長
富井衛星利用推進センター
ミッション企画室参事
一般社団法人日本航空宇宙工業会（SJAC） 宇治技術部長

4. 議事録

（1）南米等の宇宙政策等について

JAXAから資料1について説明を行った。説明の概要は以下のとおり。

- ・ブラジルの宇宙活動は「国家宇宙活動開発政策」及び10ヵ年宇宙計画「国家宇宙活動計画」に基づいて実施されており、地球観測衛星、通信衛星、打上げロケットの開発などに重点が置かれている。
- ・我が国とブラジルは、陸域観測技術衛星「ALOS」の観測データによるアマゾンの森林の違法伐採監視などで協力実績を有する。
- ・アルゼンチンは、農業、環境、災害管理といった社会経済的発展の観点から宇宙開発利用を進めている。

SJACから資料2について説明を行った。説明の概要は以下のとおり。

- ・ブラジルの宇宙関連機器の売上は約4000万ドルであり、航空宇宙全体（75億ドル）の中では、0.5%という規模。宇宙利用では、通信衛星運用企業のスター・ワン社の売上が約2億5000万ドルで世界第6位の規模。

説明の後、以下のようなやりとりがあった（以下、○質問・意見等、●回答）。

- ブラジルは多くの国と協力を行っているが、日本との協力はまだ少ないため、今後協力を深めることが重要。日系人もブラジルには多い。（中須賀部会長）
- ブラジルは、国土が広大であり、航空機でカバーできない領域が多く、宇宙利用のニーズがあり、日本との協力可能性も大きい。（橋本委員）

- ペルーと日本は天文分野での協力実績がある。今後、基礎科学的分野から協力を深化させるのも一案。(磯部委員)
- 今後、宇宙飛行士養成にとりくもうとする国に、日本の ISS 利用枠で協力することも可能性としてありえるのではないか。(渡邊委員)

(2) 委員の調査分析レポートについて

秋山委員、青木委員から調査分析レポートの発表があった。
概要は下記の通り。

・秋山委員からは、新興国に関して衛星の利用種類毎にどのようなニーズがあるのかなどの状況について報告があった。最近訪問したブラジルでは、ALOS-2 の利用や SAR などの技術提供、キャパビル支援などで非常に強い期待を持っていることが判明。それに対応するオールジャパンの体制が必要。バルト三国などの中にもキャパビル支援について同様の期待を持つ国がある。

・青木委員からは、静止軌道位置の使用権確保及び衛星周波数獲得に関して、世界的に熾烈な競争が行われており、その状況について報告があった。日本として周波数で将来競り負けないための人材育成が重要との議論があった。

以 上